

ヤリ才便り

十二月号

- 2022 -



「ハハハ」の音で

「ちよと開けると

うまく

いくんだよね



「あ、又ハハハ」瞬きをしている早さで師走を迎えられた。コロナ禍での三年で仕事はリモートが大半となり研修や講演会、カンセルがなほど普通道に変わってしまった。私のズームはパソコンに照明（女優ライト）を添えれば大抵大丈夫。五天は若く言えば「お正月」のお洋服は明るいビビットな配色にして画面上からでも元気をお伝え出来るように工夫をしています。おまじないの方達程、面白くして笑わせて下さる方、パレオの感じもたまに頂戴。年末は少し億劫がらぬのに時代の變化に前向きに取り組む事で自分の自身の變化や進化は徐々に一年と取りました。さて今年も冬は十二月二十二日、一年中最も日が短く、冬至も境に太陽の力が蘇り、生き生き力も回復するといわれ「陽来復」つまり上昇運に転じてとされていきます。冬至にはゆが湯が冷えて予防と強い香りは邪気も払い「陽来復」と唱えらるるとさらに屋敷の上の子とてゆが湯は実子まで長い年月かのかきためお正月が来るようにと祈り願うお祈りも込められてきたのか。受験生には気分転換に「イチャモウ、チヤクワ」とレップ調に唱えてお正月が気分合いをいれさせるのもお祈りの。カボチャは「南瓜」と書くように運気が北（陰）から南（陽）に向かう捉えから冬至に合点される。また「冬至粥」といわれる小豆の赤い色が魔除けに百子とて自分の邪念から守るに百子とて百子合点する。陽来復は冬が去り春が来る。とてお正月の意味もある。今年も今年もハッピーあり。笑かたりしてもみんなの日にも感謝を込めてお祈りにして。佳き年未となり、新しい年を佳き年をお祈り下さる。お健勝よりお祈り申し上げます。

令和四年十二月

師走

松本幸子

